

令和2年鳥獣被害調査結果報告

ニホンザルとニホンジカにご用心!!

市内では、イノシシやニホンザル、ニホンジカなどの鳥獣による農作物の被害が大き
な問題となっています。その被害額は、ピーク時の平成22年には1億円を超えたこともあ
りました。市では毎年、有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置とともに、各地域における被害
状況の調査を行い、実態把握に努めています。

鳥獣被害調査結果

令和2年の被害総額は、前年から4
86万円（前年比110.9%）増の4
957万円となりました。被害率は40.
2%と、過去5年のうちでは1番高い
結果となりましたが、1戸当たりの被
害額は4万3747円（前年比90.8
%）となり減少しています。

地域別の被害額は、大和地域では減
少しましたが、他の地域は増加してい
ます。特に白鳥地域は1.5倍近く増加
し、高鷲地域は、前年に続いて7地域
で最大の被害額となるなど北部方面で
の被害の増加が顕著になっています。

【表①・グラフ①参照】

鳥獣別では、イノシシの被害額は、
2年連続で前年比約20%減となつてお
り、豚熱による影響（頭数減）が考え
られます。また、ニホンザルによる被
害額は1917万円で全体の38.7%
と、鳥獣種の中で最も大きく、4年連
続で増加しており、勢いが増していま
す。【表②・グラフ②参照】

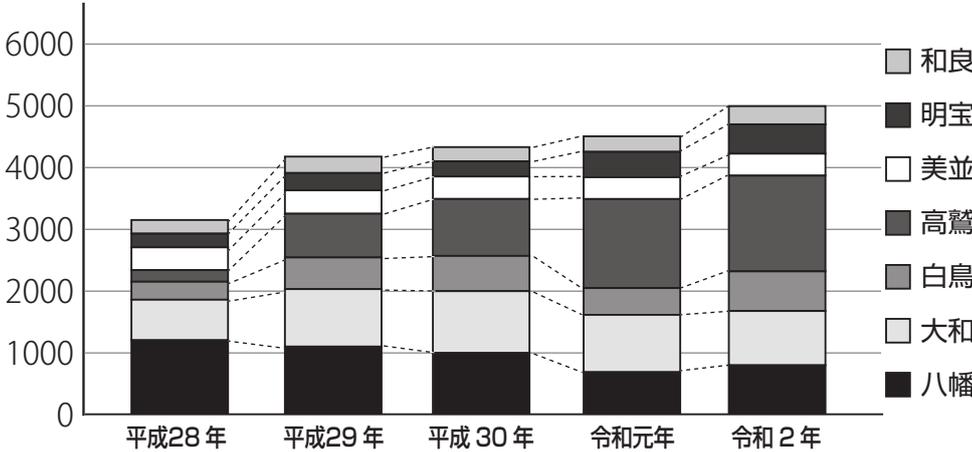
【表①】 地域別被害額

(単位:万円)

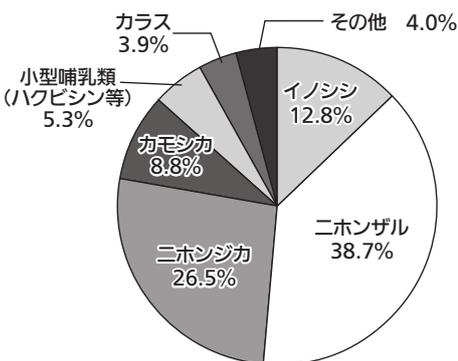
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年(被害率)	前年比
八幡	1,184	1,081	979	669	780(52.5%)	116.6%
大和	653	927	995	924	875(39.9%)	94.7%
白鳥	290	510	568	432	639(28.7%)	147.7%
高鷲	187	705	918	1,435	1,543(39.4%)	107.5%
美並	367	377	362	351	354(37.5%)	100.9%
明宝	221	279	244	409	473(48.5%)	115.7%
和良	220	265	230	251	293(42.2%)	116.8%
合計	3,122	4,144	4,296	4,471	4,957	110.9%
被害戸数	959戸	1,236戸	1,027戸	928戸	1,133戸	122.1%
一戸当たり被害額	32,554円	33,531円	41,828円	48,182円	43,747円	90.8%
回答率	41.1%	52.6%	54.1%	50.9%	51.1%	100.4%
被害率	36.2%	39.9%	32.6%	31.8%	40.2%	126.4%

※調査票は、市内在住の農事改良組合員を対象として、5,521戸に配布し、2,819戸より回答いただきました。
※被害額は、「被害面積(数量)×作物の基準単価」により算出しました。
※一戸当たり被害額は、「被害額/被害戸数」により算出しました。
※被害率は、「被害戸数/回答戸数」により算出しました。

【グラフ①】 鳥獣被害額の推移(平成28～令和2年)



【グラフ②】 鳥獣別被害割合



【表②】 鳥獣別被害額

(単位:万円)

鳥獣	令和元年	令和2年	増減額	前年比
イノシシ	805	636	-169	79.0%
ニホンザル	1,737	1,917	180	110.3%
ニホンジカ	1,062	1,313	251	123.6%
カモシカ	379	438	59	115.5%
小型哺乳類(ハクビシン等)	162	261	99	161.1%
カラス	216	192	-24	88.9%
その他	110	200	90	181.8%
合計	4,471	4,957	486	110.8%
一戸当たり被害額	48,182円	43,747円	-4,435円	90.8%

【表③】 作物目別被害額

(単位:万円)

品 目	令和元年	令和2年	増減額	前年比
水 稻	1,875	1,838	-37	98.0%
根菜類 (大根、人参等)	1,112	954	-158	85.8%
葉茎菜類 (白菜、ネギ等)	127	208	81	163.8%
洋菜類 (ブロッコリー等)	3	6	3	200.0%
果菜類 (カボチャ、トマト等)	467	613	146	131.3%
豆 類 (大豆、インゲン等)	58	130	72	224.1%
土物類 (ジャガイモ等)	213	207	-6	97.2%
花卉類 (南天等)	15	50	35	333.3%
果物類 (栗、柿等)	215	272	57	126.5%
その他 (牧草等)	386	679	293	175.9%
合 計	4,471	4,957	486	110.9%
一戸当たり被害額	41,828円	43,747円	-4,435円	90.8%

作物目別では、水稻の被害額が1838万円で、前年より37万円減少し、ダイコンやニンジン等の根菜類も158万円前年より減少しましたが、水稻と根菜類で被害の50%以上を占めています。その他の作物は、前年より被害が増加しているものが多く、特に牧草等は前年から293万円(前年比175.9%)増加しています。【表③・グラフ③参照】

さらに被害の獣害別上位3選では、白鳥地域を除く地域でニホンザルが上位となっており、ニホンジカによる被害も白鳥地域・高鷲地域で上位を占めています。

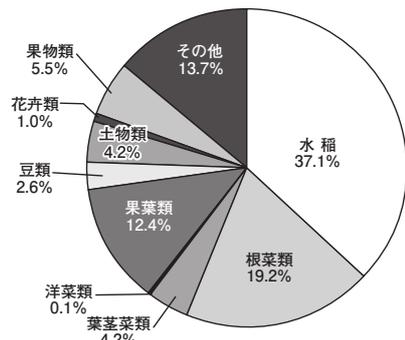
【表④】 被害割合上位3 (鳥獣別・作物目別)

(単位:万円)

	鳥 獣	被害額		割 合		品 目	被害額		割 合
		被害額	割合				被害額	割合	
八幡	ニホンザル	380	49%	八幡	水稻	337	43%		
	ニホンジカ	160	21%		果菜類	132	17%		
	イノシシ	142	18%		根菜類	124	16%		
大和	ニホンザル	424	48%	大和	水稻	269	31%		
	ニホンジカ	194	22%		果菜類	159	18%		
	カモシカ	108	12%		根菜類	133	15%		
白鳥	ニホンジカ	179	49%	白鳥	水稻	417	65%		
	カモシカ	160	25%		果菜類	79	12%		
	イノシシ	125	20%		豆類	52	8%		
高鷲	ニホンジカ	601	39%	高鷲	飼料作物	654	42%		
	ニホンザル	369	24%		根菜類	588	38%		
	イノシシ	200	13%		水稻	156	10%		
美並	ニホンザル	210	59%	美並	水稻	158	45%		
	ニホンジカ	47	13%		果菜類	54	15%		
	イノシシ	36	10%		果物類	45	3%		
明宝	ニホンザル	328	69%	明宝	水稻	321	68%		
	ニホンジカ	66	14%		果菜類	56	12%		
	小型哺乳類	24	5%		根菜類	29	6%		
和良	ニホンザル	142	48%	和良	水稻	179	61%		
	ニホンジカ	66	23%		果菜類	31	11%		
	その他	36	12%		土物類	26	9%		

【グラフ③】

作物目別被害額割合



市では、農作物鳥獣被害対策として、有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置に対する補助等を行っています。令和2年の主な鳥獣捕獲数は、イノシシ121頭、ニホンザル343頭、ニホンジカ2873頭です。CSF(豚熱)の影響でイノシシの捕獲頭数が減少しニホンザル、ニホンジカの捕獲頭数については、過去5年と比較して一定の水準を維持しています。イノシシ、ニホンザル、ニ

市の鳥獣被害対策について

ホンジカによる被害は依然として大きく、継続して捕獲を行っていく必要があります。【表⑤参照】

今後の対策としては、これらの防護柵に加え、食料残さの適正処理や追い払いなどをあわせて行うと効果的です。また、個々の対策はもちろん、地域ぐるみの対策が望まれます。

農林水産部 農務水産課
67・1835

【表⑤】 有害獣の捕獲状況

(単位:頭)

鳥 獣	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
イノシシ	432	714	489	292	121
ニホンザル	352	342	343	339	343
ニホンジカ	2,274	3,159	2,199	2,165	2,873
合 計	3,058	4,215	3,031	2,796	3,337

【表⑥】 各種防護柵の設置距離

(単位:km)

	平成27年度以前の設置距離	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
簡易電気柵	308.7	5.8	12.8	3.6	0.9	2.8	334.6
その他簡易柵(ネット等)	406	0.6	0.8	1.1	0.8	1.4	45.3
恒久柵	162.5	11.4	6.9	7.0	1.0	1.6	190.4
合 計	511.8	17.8	20.5	11.7	2.7	5.8	570.3